

第30号

奈良 国立博物館 だより

平成11年 7・8・9月



特別展

国宝・五重塔復興支援

女人高野 室生寺のみ仏たち

7月13日(火)～9月5日(日)

東新館

親と子のギャラリー

こどもを守るほとけたち

8月3日(火)～8月29日(日)

西新館

平常展

仏教美術の名品

7月1日(休)～9月30日(休)

本館・西新館

休館日：月曜

開館時間：9時～16時30分

(入館は16時まで)

金曜は9時～20時

(入館は19時30分まで)

〔写真解説〕

国宝 十一面観音菩薩立像（室生寺）

木造 平安時代 像高196.2cm

カヤの一木造で、いかにも平安初期彫刻らしい丸々とした頭部と、十分な奥行のある体軀をもつ。衣文は浅く刻まれているが鋭くしのぎだち、彫技の冴えを存分に示す。重厚さの中に繊細な感覚をのぞかせる作品で、九世紀末から十世紀初めの制作とみられる。

(特別展「室生寺のみ仏たち」より)

特別展

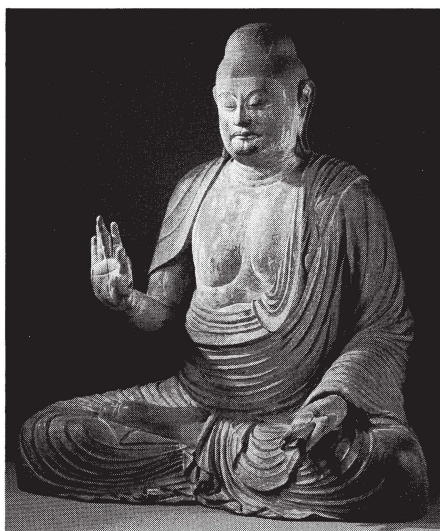
国宝・五重塔復興支援

女人高野 室生寺のみ仏たち

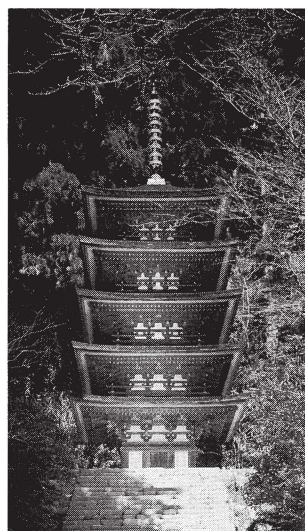
7月13日(火)～9月5日(日) 東新館

昨年9月の台風で被害を受けた、奈良室生寺の五重塔の復旧を願い、室生寺の名宝展を開催します。室生寺は奈良時代末に創建され、法相宗の興福寺や天台・真言密教の影響を受けるなど、複雑な歴史を辿りつつ、江戸の元禄年間に真言宗となりました。室生寺は、女人禁制の高野山に対し、女性の参拝を受け入れてきたことから、「女人高野」の名があります。

本展では、優美な姿で有名な十一面観音立像を初めとする室生寺所蔵品の他、もと同寺にあった室生村中村区所蔵の地藏菩薩立像も特別に出品され、国宝・重要文化財11件、89点、出陳総数33件、207点が展示されます。本展は東京国立博物館からの巡回展ですが、工芸・絵画・経典などは奈良国立博物館会場のみの出品であり、彫刻なども東京会場と展示内容が一部変わりますので、是非この機会に室生寺の名宝をご鑑賞ください。



●釈迦如来坐像



●室生寺五重塔

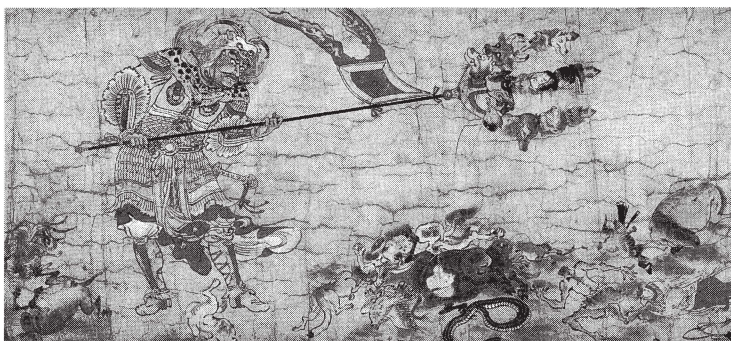
親と子のギャラリー

こどもを守るほとけたち

8月3日(火)～8月29日(日) 西新館東南室

高度に医学が発達した現代においても、子が無事に生まれ、すこやかに成長することは親たちの共通の願いです。その願いは、遠い昔にあってはさらに切なるものだったにちがいません。今回の展示は、地藏菩薩・せんだんけんだつばかり梅壇乾闥婆・訶梨ていり帝母の三者を主題とした名作を、わかりやすい解説をつけて陳列するはじめての試みです。いずれも日本仏教において、

こどもに災いがふりかからないことを願う祈禱の対象になったり、不幸にして死んでしまった子をよみがえらせる物語の主人公になったりして、「こどもを守るスーパーマン」と位置づけられ、信仰を集めた存在です。各作品のすばらしい造形のうちにこめられた、こどもの安全を祈る人々の思いを、ぜひこの機会に読みとってみてください。



●梅壇乾闥婆図〈辟邪絵のうち〉

主な出陳品

地藏菩薩立像(当館)、●梅壇乾闥婆図〈辟邪絵のうち〉(当館)、訶梨帝母像(奈良県立美術館)

平常展

仏教美術の名品

7月1日(木)～9月30日(木) 本館・西新館

本館では、この4月よりテーマ展示に構成を変更しました。本館で閉室中であった展示室もオープンし、新たに「写経の美」のコーナーを設けて、合計10のテーマで展示を構成しています。

また、新たに西新館でも平常展をオープンしました。この西新館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古といったジャンル別で展示を行っています。西新館の平常展は、特別展などの開催のために閉室することはありますが、それ以外は基本的に開館の予定です。今後は、この西新館と本館とで平常展を充分にお楽しみいただけることと思います。

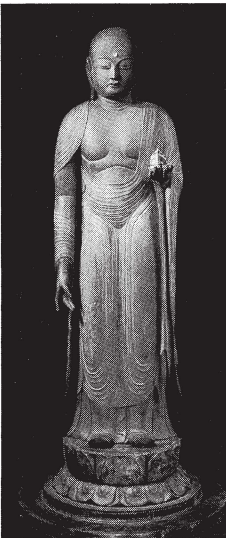
特別展「**国宝・五重塔復興支援 女人高野 室生寺のみ仏たち**」 東新館

【彫刻】●十一面観音菩薩立像、○文殊菩薩立像、○薬師如来立像、○地藏菩薩立像、●薬師如来立像〈伝釈迦如来像〉光背、○地藏菩薩立像光背（以上室生寺）、○地藏菩薩立像（奈良県室生村三本松中村区）、○十二神将立像：招杜羅大将〈子神〉、○同：宮毘羅大将〈寅神〉、○同：伐折羅大将〈卯神〉、○同：迷企羅大将〈巳神〉、○同：額伽羅大将〈午神〉、○同：因達羅大将〈申神〉、○同：波夷羅大将〈巳神〉、○同：摩虎羅大将〈戌神〉、○同：真達羅大将〈亥神〉、○弥勒菩薩立像、●釈迦如来坐像

【工芸】○両部大壇具〈華形大壇〉金剛界壇、○同〈金銅密教法具〉金剛界：火舎、○同：花瓶、○同：六器、○同：仏供台、○同：輪宝、○同：羯磨、○同：金剛盤、○同：五鈷鈴、○同：独鈷杵、○同：三鈷杵、○同：五鈷杵、○同：灑水器、○同：塗香器、○同：四厥、○同：孔雀文磬、○同：磬架、○両部大壇具〈華形大壇〉胎藏界壇、○同〈金銅密教法具〉胎藏界：火舎、○同：花瓶、○同：六器、○同：仏供台、○同：輪宝、○同：羯磨、○同：金剛盤、○同：五鈷鈴、○同：独鈷杵、○同：三鈷杵、○同：五鈷杵、○同：灑水器、○同：塗香器、○同：四厥、○同：宝珠文磬、○同：磬架、○大神宮御正体、鬼面独鈷杵、宝篋印塔形舍利厨子、持蓮華形舍利容器、杓塔、木製華鬘、鉄鈎灯籠、青磁浮唐草文花瓶、青磁浮唐草文香炉

【絵画】善女竜王図、両界曼荼羅図：金剛界曼荼羅、同：胎藏界曼荼羅、真言八祖像：龍猛像、同：龍智像、同：金剛智像、同：不空像、同：善無畏像、同：一行像、同：恵果像、同：空海像、釈迦三尊十六善神図、十二天像：日天、同：月天、同：梵天、同：帝釈天、同：火天、同：水天、同：風天、同：伊舎那天、同：焰摩天、同：羅刹天、同：地天、同：多聞天、弥勒菩薩像、南蛮屏風、如来形坐像、如意宝珠曼荼羅図

【書跡】紺紙金泥大般若経〈巻第五百五〉、大般若経〈巻第一、第六百〉、㊦一秘記、室生寺縁起（以上室生寺）



○地藏菩薩立像（奈良県室生村中村区）

平常展「**仏教美術の名品**」 本館・西新館

＜本館＞**1室 奈良の美術**
【彫刻】○木造阿弥陀如来坐像（金剛山寺）、●木心乾漆義淵僧正坐像（岡寺）、●木造法相六祖像のうち行賀坐像（興福寺）、○木造重源上人坐像（浄土寺）、●木造薬師如来立像（元興寺）、○木造十二神将立像（東大寺）、○木造十一面観音立像（新薬師寺）、○伝興福寺北円堂伝来木造四天王像のうち多聞天・広目天立像（当館・興福寺）、●乾漆十大弟子像のうち目連連・舍利弗立像、●乾漆八部衆像のうち緊那羅立像（以上興福寺）、○銅造菩薩半跏思惟像（神野寺）、○銅造観音菩薩立像（法隆寺）、○銅造観音菩薩立像（金剛寺）、銅造観音菩薩立像（当館）、○銅造薬師如来立像（般若寺）
【絵画】板絵補陀落山図・十一面観音来迎図（海住山寺）
【工芸】●当麻曼荼羅厨子扉（当麻寺）**2室 阿弥陀浄土と観音・地藏信仰**
【彫刻】○木造阿弥陀如来立像（浄土寺）、木造阿弥陀三尊立像（峰定寺）、木造弥勒菩薩立像（林小路町）、○木造十一面観音立像（勝林寺）、○木造十一面観音立像（薬師寺）、○木造千手観音立像（園城寺）、○木造聖観音立像（観心寺）、○木造千手観音立像（妙法院）、○木造地藏菩薩立像（長命寺）、○木造地藏菩薩立像（春覚寺）、木造地藏菩薩立像（長谷寺）**3室 密教の美術**
【彫刻】○木造梵天立像、○木造伝教脱菩薩立像（以上秋篠寺）、木造大日如来坐像（当館）、○木造如意輪観音坐像（当館）、○木造紅玻璃阿弥陀如来坐像（当麻寺）、○木造不動明王坐像（正寿院）、○木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、
【絵画】愛染明王像（当館）：～7/25、六字経曼荼羅（当館）：7/27～8/29、○普賢延命菩薩（当館）：8/31～10/3
【工芸】古式三鈷杵、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵（以上当館）、●密教法具（厳島神社）、○五鈷四天王鈴（弥谷寺）、○五鈷三昧耶鈴（金峰山寺）、五鈷種子鈴（当館）、○独鈷鈴、○三鈷鈴（以上個人蔵）、五鈷鈴（当館）、○宝珠鈴（個人蔵）、塔鈴（当館）、一面器・飲食器、●鉄宝塔（以上西大寺）**4室 ガンダーラ・中国・韓国の仏教美術**
石造如来立像〈ガンダーラ〉、如来頭部ストゥック〈ガンダーラ〉（以上個人蔵）、石造仏図浮彫〈ガンダーラ〉、舍利容器〈クシャーン〉（以上当館）、埴製菩薩立像〈隋～北斉〉、○諸尊仏龕〈唐〉、金銅菩薩立像〈唐〉、○石造如来三尊像〈唐・宝慶寺伝来〉（以上個人蔵）、金銅如来立像〈統一新羅〉（光明寺）、金銅如来立像〈統一新羅〉（当館）**5・6室 本地垂迹の世界**
【彫刻】●木造八幡三神像（薬師寺）、木造男女神像（当館）、木造童子形神像（個人蔵）
【絵画】○板絵神像（薬師寺）：7/1～10/3、生駒宮曼荼羅（往馬大社）、春日本迹曼荼羅（金剛寺）：～7/25、春日社寺曼荼羅（久度神社）、宝珠台〈男山曼荼羅〉（海住山寺）：7/27～8/29、熊野垂迹神曼荼羅（個人蔵）、春日宮曼荼羅（個人蔵）：8/31～10/3
【工芸】○十二尊鏡像（細見美術財団）、○阿弥陀如来鏡像、○蔵王権現鏡像、男神対向鏡像（以上当館）**8室 写経の美**
【書跡】〔～8/15〕海龍王経（海龍王寺）、増一阿含経卷第三十九〈善光朱印経〉、大威徳陀羅尼経卷第八〈法隆寺一切経〉（以上当館）、○大般若経〈七寺一切経〉（七寺）、大毘盧遮那成仏神変加持経卷第四〈消息経〉（当館）、無量義経（禅林寺）、●法華経〈一品経〉（長谷寺）、大般若経（海住山寺）
〔8/17～10/3〕瑜伽師地論卷第十六〈五月一日経〉（個人蔵）、瑜伽師地論卷第八十九〈舍人国足願経〉（当館）、○大般若経〈魚養経〉（薬師寺）、●大毘盧遮那成仏神変加持経〈吉備由利願経〉（西大寺）、●大般涅槃経卷第十二〈中尊寺経〉（金剛峯寺）、紺紙金字金剛三昧経〈神護寺経〉（当館）、般若心経（海住山寺）、版本阿毘達磨品類足論卷第七〈足利尊氏願経〉（当館）

●＝国宝 ○＝重要文化財 出陳品は都合により一部変更する場合があります。

9室 古代の伽藍

【考古】百濟出土古瓦（個人蔵）、高句麗出土古瓦（当館）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、大阪新堂廃寺出土古瓦（大阪府教育委員会）、山田寺出土古瓦（奈良国立文化財研究所・橿原考古学研究所）、川原寺出土古瓦（奈良国立文化財研究所）、法隆寺出土古瓦（法隆寺）、本薬師寺出土古瓦（個人蔵・当館）、岡寺出土古瓦（当館）、岡寺出土古瓦（火雷神社）、河内寺出土古瓦（大阪府教育委員会）、大官大寺出土古瓦（奈良女子大学・当館）、興福寺出土古瓦、平城京跡出土古瓦（以上当館）、東大寺出土古瓦（個人蔵・当館）、唐招提寺出土古瓦（唐招提寺）、山村廃寺出土蓮華文鬼瓦（個人蔵）、奥山久米寺出土蓮華文鬼瓦（京都国立博物館）、中山瓦窯出土鬼瓦（当館）、秋篠寺出土鬼瓦、○大安寺出土鬼瓦（以上個人蔵）、橘寺出土方形三尊埴仏（当館）、川原寺裏山出土方形三尊埴仏（明日香村）、南法華寺出土方形三尊埴仏（南法華寺）、天花寺出土埴仏、定林寺出土塑像頭部（以上当館）、川原寺裏山出土塑像頭部（明日香村）、本薬師寺出土塑像頭部（薬師寺）

10室～11室 釈迦・法華経の美術

【彫刻】木造出山釈迦如来立像、○木造清涼寺式釈迦立像（以上当館）、銅造誕生釈迦仏立像（個人蔵）
【絵画】法華経曼荼羅、釈迦五尊十羅刹女像（以上当館）：～7/25、○法華経宝塔曼荼羅（立本寺）：7/27～10/3、○仏涅槃図（当館）：7/27～8/29、○釈迦三尊像（頼久寺）8/31～10/3
【書跡】○法華経（丹生津比売神社）：～8/15、紺紙金字法華経（興聖寺）：8/17～10/3
【工芸】百万塔・無垢浄光経陀羅尼経（以上当館）、●透彫舍利容器（西大寺）、○火炎宝珠形舍利容器（海龍王寺）、○五輪塔形舍利容器（浄土寺）、●金銅透彫経筒（万徳寺）
【考古】○金峯山経塚出土鍍銀経箱（金峯神社）、粉河経塚出土銅経筒、粉河経塚出土陶製外筒、粉河経塚出土紙本墨書法華経（以上当館）、○長安寺銅板法華経（長安寺）、福岡・飯盛山瓦経（当館）

12室 禅の美術

【絵画】○五百羅漢図（大徳寺）：6/29～、一休禅師像（当館）、渡唐天神像（菅原神社）：6/29～7/25

13室 正倉院宝物へのいざない

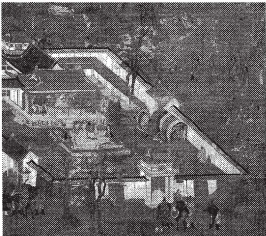
新羅墨、筆、黒漆三合鞘刀子、紫檀把黒漆二合鞘刀子、斑犀把白牙鞘金銅荘刀子、紫檀把牟久木鞘金銅荘刀子、金銀荘大刀、黒作大刀、火舎、檜和琴、子日手辛鋤・粉地彩絵倚几、子日目利箒・粉地彩絵倚几、紅牙撥鐏尺、紅牙撥鐏尺、緑牙撥鐏尺、紅牙撥鐏棊子、紺牙撥鐏棊子（以上当館）

＜西新館＞

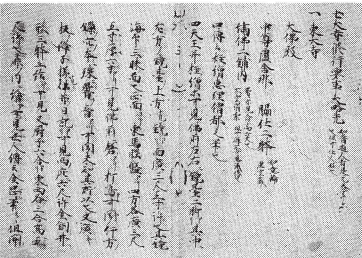
【彫刻】木造阿弥陀如来立像（個人蔵）、木造宝冠阿弥陀如来坐像（安楽寿院）、木造阿弥陀如来坐像（金剛寺）、○銅造阿弥陀如来立像（善光寺）、○木造如来坐像（興福寺）、○木造釈迦如来坐像（法隆寺）、銅造釈迦如来坐像（園城寺）、●木造薬師如来坐像（当館）、○木造千手観音（准胝観音）立像（個人蔵）、○木造聖観音立像（個人蔵）、○木造地藏菩薩立像（大福寺）、○木造竜猛菩薩立像（泰雲院）、木造五大明王坐像、木造愛染明王坐像（以上当館）、○木造四天王立像（海住山寺）、木造四天王立像（靈山寺）、木造十二神将立像（当館）、○木造閻魔王倚像（金剛山寺）、木造南無仏太子立像（法起寺）、木造大黒天立像（当館）
【絵画】〔～7/25〕○釈迦八相図（大福田寺）、仏涅槃図（奈良・小柳村）、扉絵（東福寺）、諸観音図像（当館）、○楊柳観音像（聖衆来迎寺）、○千手観音像（当館）、如意輪観音像（個人蔵）、馬頭観音像（西大寺）、○聖徳太子像（一乗寺）、○聖徳太子像（観音寺）、聖徳太子勝鬘経講讀図（宝厳寺）、聖徳太子絵伝（談山神社）
〔7/27～8/29〕●両界曼荼羅（東寺）、○高雄曼荼羅図像（長谷寺）、○一字金輪曼荼羅、○大仏頂曼荼羅（以上当館）、○五大尊像（来振寺）、○十二天像〈梵天・帝釈天〉（聖衆来迎寺）
〔8/31～10/3〕浄土曼荼羅、当麻曼荼羅（以上当館）、○当麻曼荼羅縁起、○当麻寺縁起（以上当麻寺）、善惠上人絵（浄橋寺）、○閻魔王図（長泉寺）、●六道絵〈黒縄地獄〉（聖衆来迎寺）、○阿弥陀来迎図（宝厳寺）、○阿弥陀四十九化仏来迎図（光明寺）、○阿弥陀聖衆来迎図（西教寺）、阿弥陀聖衆来迎図（金剛寺）、○二河白道図（当館）、○釈迦阿弥陀発遣来迎図（雲辺寺）

【書跡】〔～7/25〕●国清寺外求法惣目録、●太政官給公驗牒〈先本〉、●制成文（以上園城寺）、○星尾寺縁起（高山寺）、弘法大師二十五箇條遺告（能満院）、○類秘抄（当館）
〔7/27～8/29〕○誓度院規式（興国寺）、○神護寺如法執行問答〈明恵筆〉、○雑筆集、不動護摩次第、悉曇字母积、○七大寺日記（以上当館）
〔8/31～10/3〕●唐人送别詩并尺牘、●越州都督府過所・尚書省司門過所（以上園城寺）、○造東大寺司請経牒、○弘副寺牒並大和国判、○門葉記、浄蔵法師伝（以上当館）
【工芸】銭弘椒八万四千塔、宝篋印塔宝塔形舍利容器、舍利厨子（以上当館）、○金銅密観宝珠嵌装舍利厨子（般若寺）、金銅火焰宝珠形舍利容器（個人蔵）、獅子舍利塔（金剛寺）、百万塔（当館）、銅経筒（施福寺）、○金銅透彫経筒（万徳寺）、○金銅透彫華鬘、○金銅透彫幡頭（以上中尊寺金色院）、○金銅透彫華鬘（当館）、○木製彩色華鬘（靈山寺）、菊牡丹文彩色華鬘（当館）、●金銅透彫華籠（神照寺）、○紙胎漆塗彩絵華籠（万徳寺）、竹製華籠（性海寺）、金銅装説相箱（個人蔵）、○黒漆金銅装戒体箱（金剛寺）、○宝相華文如意（当館）、錫杖頭（当館）、王子形水瓶および承盤、王子形水瓶、布薩形水瓶（以上当館）、王子形水瓶（個人蔵）、人物楼閣文香合、牡丹文香合（以上当館）、柄香炉（高山寺）、柄香炉、金山寺香炉、火舎、三脚卓（以上当館）

【考古】土偶〈山形・杉沢遺跡出土〉、深鉢形土器〈伝茨城県出土〉、銅矛〈長崎県黒島遺跡出土〉（以上当館）、銅鐸（妙国寺）、銅鐸〈和歌山県日高郡南部川村出土〉、北和城南古墳出土品（以上当館）、埴輪女子立像〈伝関東出土〉（個人蔵）、○埴輪牛〈奈良・羽子田遺跡出土〉（奈良・田原本町）、裝飾付器台付子持須恵器、○佐井寺僧道薬墓出土品、○山代忌寸真作墓誌、（以上当館）、行基墓誌残欠、○青磁鉢（正暦寺）、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉緑彩水注、青白磁水注（以上当館）
〔～8/1、8/31～10/3〕深鉢形土器〈伝青森県出土〉、銅矛〈愛媛県川之江市出土〉（以上当館）、埴輪男子立像〈伝関東出土〉（個人蔵）、人物線刻裝飾付子持壺須恵器〈伝愛媛県北条市出土〉、○出雲萩杵古墓出土品、青磁双耳瓶、青白磁花唐子文輪花鉢、青磁花唐子文鉢（以上当館）



○釈迦八相図〈部分〉（大福田寺）



○七大寺日記〈部分〉（当館）

ろくく け さ だきもんどうたく

六区袈裟襷紋銅鐸 大阪府堺市妙国寺蔵 弥生時代

これ、ナニ？ 六区袈裟？襷？？紋？銅鐸？？？

歴史の教科書にも載っている「銅鐸」ですが、弥生時代の青銅製品、一種のカネ（鐘）というところが一般的な説明でしょうか？ それなら「鐘」を使えばいいのに、「鐸」という難しい文字をなぜ使うのでしょうか。

鐘は、お寺の梵鐘を思いだせばわかるように、外側を叩いて音を鳴らします。ところが、この銅鐸は、本来は中に「舌」とよばれる棒をぶら下げて、内側を叩きます。お寺の堂塔の屋根の四隅にぶら下がるカネも、銅鐸とほぼ同じ構造であり、「風鐸」と呼ばれています。奈良博帰りにでも、興福寺などへ立ち寄ってみてください。「鐸」とは、内側を叩いて鳴らす構造のカネなのです。

「袈裟襷紋」は、僧侶の袈裟のようなタスキ状の紋様（文様）、つまり、斜め向きの格子目文様で埋められた帯紋様で飾られたという意味で、その帯紋様によって、6個のマス目（四角い空白部）があるため、六区袈裟襷紋と呼ばれます。



どうしてなの？ 2つの穴、10？個の穴

銅鐸の本体のやや上の方に2つの穴があります。このような穴は、実はよくみると、合計10？個あります。たぶん普通に数えると10個にならないはずの難問？ですが、探してみてください。

さて、この穴はいったい何なのでしょう？ 銅鐸は、熱して溶けた銅を型（鋳型）に流し込んで作ります。銅鐸は中空であるため、型は外型と内型から成り、その間に一定の隙間が必要になります。そこで、「型持」と呼ばれるものをあちこちに配して、外型と内型の隙間を保つのですが、その「型持」の跡が穴となって残るのです。この穴は、銅鐸の作り方を示す痕跡なのです。

ここに注目！ 吊り手の形態

銅鐸の上部には、半円形の吊り手（鈕）が付いています。鈕をよくみると、やや分厚い、断面菱形の部分が確認できます。これが本来の吊り手の部分で、その内側・外側に平坦部分がついています。銅鐸は本来吊るして鳴らすため、この吊り手部は本体を支えることができるように頑丈でなくてはならないはずです。ところが、この銅鐸では（少々壊れていますが）内側に薄い平坦部があるのです。こうなると吊るすには適しているとはいえません。

銅鐸の内側をのぞいてみると横方向に出っ張り（突帯）が巡っています。その部分に「舌」が当たって音が鳴るのですが、この銅鐸では当たった痕跡も確認できません。つまり、この銅鐸は鳴らすための銅鐸ではなくなっているのです。「聞く銅鐸」から「見る銅鐸」に変わっていたのです。

それに伴い、銅鐸も徐々に大型化します。この銅鐸より新しい和歌山県出土銅鐸（本館蔵、展示中）は、「見る銅鐸」として大形になっているのがわかるでしょう。最大の銅鐸になると、なんと1.3mを越えます。袈裟襷紋銅鐸は古い段階では四区なのですが、大型になるとそれでは空間がもたなくなつて、六区になっていきます。吊り手などを見ると、銅鐸の使われ方の変化が読み取れるのです。

研究最前線☆ 銅鐸から歴史を読み取るさまざまな試み

島根県（出雲）の加茂岩倉遺跡で大量の銅鐸が見つかったという大発見（1996年10月）は、まだ記憶に新しいことかと思えます。教科書などでは、畿内を中心に出土する銅鐸と九州を中心にする銅矛（奈良博でも展示）という簡単な図式で、弥生社会を考える材料にされてきました。畿内と九州の2大勢力圏というふうに。しかし、出雲の例を初め、再検討がなされる段階にあります。

例えば、銅鐸を作るための鋳型は初期の段階のものが九州から出土しており、要するに九州でも銅鐸は作られていたのです。そもそも銅鐸の起源は、朝鮮半島や大陸にあるので、九州で作られてもなんら不思議はありません。ところが、九州は矛がお気に召したのか？、はたまた別の理由か、銅鐸を次第に作らなくなるのです。

銅鐸はまだ謎がいっぱいです。銅鐸が祭りなどでいかに使われたのか？、古墳時代に入る前に銅鐸がなぜ消滅するのか？、銅鐸に描かれた絵は何を意味するのか？、などなど。古くて新しい課題にも、最新の考古資料を用いた、果敢な取り組みが続いています。

奈良博は仏教美術を中心に展示していますが、今回の西新館の平常展のオープンに伴い、普段は展示しない「銅鐸」「銅矛」などを並べてみました。どうか、ごゆっくりご覧ください。（高橋照彦）

◆公開講座 特別展「女人高野 室生寺のみ仏たち―国宝・五重塔復興支援―」に関連するものです。

7月31日(土) 室生寺の彫刻	東京芸術大学名誉教授	水野敬三郎
8月7日(土) 室生寺の絵画	東北大学教授	有賀 祥隆

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク 毎月第2水曜日に実施しています。

7月14日(水) 弥生時代の銅鐸	企画普及室研究員	高橋 照彦
8月11日(水) こどもを守るほとけたち	企画普及室研究員	稲本 泰生
9月8日(水) 当麻曼荼羅縁起について	企画普及室長	梶谷 亮治

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室 小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「平安時代の歴史と美術」(第2クール)をテーマに勉強します。

7月10日(土)平安時代の絵画／8月14日(土)「室生寺展」見学／9月11日(土)現地見学(平等院)／
10月9日(土)最澄と空海はどんな字を書いたのか／11月13日(土)経塚―お経のタイムカプセル―／
12月11日(土)まとめ

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学料金が必要なことがあります。定員は200名(先着順)です。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。

解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分間)を予定しています。

この他、本年4月からは、旅行などで奈良を巡る前にお聞きいただくと便利な「プレ見学講座」も開催中です。コンピューター画像などで仏像鑑賞の基礎知識を解説する「ぶつぞう入門」(30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組合わせることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説をします。お問合せは学習普及専門官(電話0742-22-7008)まで。

※なお、地下回廊でも「ぶつぞう入門」などコンピューター画像で個人検索ができます。一度チャレンジしてください。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料

特別展		大人	高・大生	小・中生
	一般	1,000円	600円	300円
	団体	700円	300円	150円

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

*団体は責任者が引率する20名以上。

*特別展料金は、「女人高野 室生寺のみ仏たち」展の観覧以外に、平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630-8213 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館
ホームページ〈URL〉<http://www.narahaku.go.jp/>